

空と風の散歩・大野コース

阿南健康第5番完歩

大野公民館の道

大野公民館

中大野町北傍示440-2

TEL (0884) 22-1564

大野住民センター

TEL (0884) 22-1001

TEL (0884) 22-1564



③ から ⑥ までは車道を避けて、土手の中腹の道を歩きましょう！

大野駐在所：22-1069

松崎内科医院：23-5778

トイレは曜日・時間
により利用できない
施設があります

空と風の散歩・大野コース

阿南健康第5番完歩 大野公民館の道

①大野公民館		②惣蔵神社		③大野水源地		
WC	500m		700m		700m	
.....	④水神社		⑤野神神社		⑥持井橋	
	900m		800m		1.2km	
.....	⑦城内神社		⑧山城神社		⑨西部公園	
	1.8km		1.2km	WC	1.1km	
.....	⑩大野総合センター		⑪下大野教育集会所			
	400m		WC		900m	
.....	大野公民館					
	WC					

●**那賀川の名** 加茂谷から大野、中野島に沿って流れる那賀川はもと「長川」と書かれていた。西暦 645 年の大化改新前までは、那賀川を中心とする地域には「長（なが）の国」があり、事代主命の子孫韓背足尼（からせのすくね）が国造として支配していたところから「長川」の名が生まれたと考えられる。大化改新後、長国は吉野川流域にあった栗国（あわのくに）と合併し、713（和銅 6）年には、阿波国那賀郡と改名されることになり、「長川」も「那賀川」と名称を変更された。

●**三条の名** 大化の改新後、条里制度により、全国的に土地の区割りが行われた。条里制度とは、大化の改新（645 年）で定められた班田収授の法により、公民に与えられた口分田の地割りのことである。「坪」という 1 町四方の土地を基礎とし、6 町四方の土地を「里」、里を縦に数える時「条」と呼んだ。現在、条里制度のなごりとして、九ノ坪、三条などの地名が残っている。

●**ガマン堰（竹原堰）跡** 那賀川と岡川が接する地点では、度重なる洪水から商工業地域と農地を守るため、1869（明治 2）年、「越流堤」と呼ばれる石張りの堰が築かれた。しかし、洪水はしばしば堰や田畑を壊したため、そのたびに地元の人々は「ガマン、ガマン」と励ましあって復旧させた。そのため、いつしか竹原堰は「ガマン堰」と呼ばれるようになった。1943（昭和 18）年、改修工事により、現在の堤防になった。

●**八貫の渡し跡** 昔、持井橋の下流の土手に八貫渡しと言われる渡し場があった。1855（安政 2）年、「長川及岡川絵図」には持井～上大野、岩脇～南島、古庄～中原、大京原～柳島、中島～横見の 5 箇所の渡し場が描かれている。

●**野神神社** 昔、那賀川は再三にわたり堤防が決壊し、大洪水になった。村人は相談した結果、朝一番に堤防を通った女の人を人柱に立てることにした。そして、何も知らない女のお遍路さんが通りかかり、無理やり人柱にされてしまった。1949（昭和 24）年、那賀川南岸用水工事の際、人骨が発掘され、言い伝えが本当であることが判明した。その人骨を祀り、犠牲者の冥福を祈ったのが野神神社である。「野神さん」とも言われ、肩こりや足腰の痛みを治してくれるそうである。

●**上大野城跡** 城の主将は仁木伊賀守と伝えられる。1582（天正 10）年、長宗我部軍により、この上大野城のほか、本庄城、西方城、大湊城、今市城が落城した。戦国時代、阿波国の実権は三好家から細川家に移ったが、1583（天正 11）年に長宗我部元親により四国統一された。

●**阿南西部公園** 阿南西部公園は、市の花「ひまわり」、美しい清流「那賀川」。橘湾の雄大な「リアス式海岸」をイメージした複合遊具を配置している。また、自然の地形を生かした多目的芝生広場や遊歩道があり、子どもからお年寄りまで、気軽に運動や遊びに親しみながら、健康づくり、人との交流、心の安らぎが得られる公園である。